



教会建築の ことばとかたち

「教会」という言葉は、本来、キリスト教を信じる人々の共同体を指します。しかし同時にその共同体が集い、祈り、典礼を行う場としての建物もまた「教会」と呼ばれてきました。建物としての教会は、信仰の営みと深く結びつきながら、時代や地域に応じて多様な形をとってきました。本講座では、初期キリスト教徒がどのような場所に集い、礼拝と典礼の場としての建物がどのように発展してきたのかをたどります。続いて、中世のロマネスク様式やゴシック様式の教会建築を手掛かりに、祭壇、信徒席といった聖堂の各部分が、どのような典礼的、象徴的意味をもって理解されてきたのかを読み解きます。さらに、近現代における典礼理解の変化のなかで、教会建築の空間構成がどのように捉え直されてきたのかを考察します。講座の第3回では、実際に教会を訪れ、これまで学んだ視点をもとに、現代の教会建築の空間構成や象徴性を具体的に見ていきます。

場所:真生会館 3 階講義室、ZOOM 配信あり(第1回と第2回)

受講料:各回 1,200 円

※第3回の教会訪問の交通費はご負担願います。

公益財団法人真生会館 東京都新宿区信濃町 33-4

TEL 03-3351-7121 FAX 03-3358-9700

金曜日 10時30分～12時

第1回 10月2日

教会建築の形と歴史

第2回 11月6日

教会建築とシンボリズム

第3回 12月4日

フィールドワーク

(神田教会、麹町教会訪問予定)

講師:坂田 奈々絵

(清泉女子大学

総合文化学部准教授)



受講お申込み QR コード



◆教会建築のことばとかたち 受講申し込み◆

お名前 _____

お電話番号 _____

E メールアドレス _____

☐ 10月2日

☐ 11月6日

☐ 12月4日